



### 春の御幸山

本日はコロナ禍の中、皇紀二千六百八十三年建国記念日祭に、御参列賜りまして、有難く厚く御礼申し上げます。

只今ご神前に御皇室の弥栄と、国家の繁栄、世界平和をご祈念申し上げます。ご参列の皆様方・崇敬者の皆様方には、日頃より英霊の慰霊顕彰・神社の護持運営に、格別のご支援ご協力を賜りまして、重ねて御礼申し上げます。

さて、令和元年年末より、新型コロナウイルス感染症の拡大により、春秋の大祭、祭典・行事等の中止、或いは縮小しながら参列者の安全を考慮しての斎行でございましたが、本年春季慰霊大祭より、ご遺族・崇敬者・友好団体の皆様には通常のご案内を差し上げますので、感染状況並びに体調をご考慮の上ご参拝賜りますようお願い申

申し上げます。

さて、本日の建国記念の日は、初代神武天皇より二六〇〇年以上におよびます。我が国の天皇陛下並びに皇室の歴史は、現存する世界の君主国で最長であります。日本では万世一系の皇統と共に、その大御心も綿々として、次世代の御代に受け継がれてまいりました。しかし、最近の世論調査等によりますと、皇統を巡る歴史や伝統を知らずに「男女同権」という社会的風潮から、深い思慮に寄らず、風潮に流され、女性天皇・女系天皇に賛成している人が多いのではないかと思われます。

男系による皇位継承が、古来より例外なく、維持されてきたことの重みを踏まえ、今後の皇位継承に関する事柄を考え



### 御祭神数

当神社に御鎮祭申し上げております御祭神は四万九千七百二十八柱です。

### 建国記念日祭挨拶

宮司 額田 照彦

る際に、極めて重要な意味を持つのは言うまでもありません。さらには、我が国柄に大きく係わることから、我々国民も重大な関心を持って、見守るべき、重要な事ではないでしょうか。

今後の皇位継承が未来永劫男系で、国民挙って祝福のもとに執り行われますよう、お祈り申し上げます。本日ご参列の皆様方の、御健勝・御多幸を衷心よりお祈り申し上げますとともに、今後とも当社へのご支援ご理解賜りますようお願い申し上げます。

## 終戦七十八年を迎えて

愛媛縣護國神社崇敬会

会長 竹内 誠治



令和五年の新年度に当たり、ご遺族、護國神社崇敬者の皆様にご挨拶を申し上げます。日頃は、護國神社の各種行事に際しまして格別のご理解とご協力を賜り、心より厚く御礼申し上げます。

令和への御代替わりを記念して、総代の皆さんと、紅梅、白梅を護國神社の境内に植樹させていただきました。以来早くも数年が経過し、今年も紅白の花を咲かせてくれました。自然の力強さに感謝するとともに、時の流れの速さを、あらためて感じさせられています。



令和5年2月撮影

この間、我々はコロナ禍に見舞われ、日常生活や各種の行事の自粛、或いは、人の移動自粛など、社会生活に大きな影響をもたらしました。マスク生活が日常化し、今年の春の中高の卒業生などは、三年間にわたり、顔もろくに見せ合えないまま、新しい門出を迎えました。

しかし、ようやく各種制限が緩和される方向にあり、明るい兆しが見え始めております。今後、護國神社の大祭等、各種の行事についても、従来の形で実施できる見通しであります。ただ、我々遺族は高齢者が多くを占

めており、今後とも細心の注意をしながら行動しなければならぬと思います。

さて、今年も終戦から七十八年を迎えます。現在の我が国の平和と繁栄は、先の大戦で祖国の安寧と家族の平穏を心から願い、戦場で散華された多くの犠牲のうえに成り立っていることを忘れてはなりません。多くの英霊に報いるためにも、現在の平和を維持し、二度とあの悲劇を繰り返してはなりません。

ヨーロッパにおいては、ロシアがウクライナ侵攻を始めて一年が経過し、多くの遺族が、そして遺児も数多く出ています。現地の悲惨なニュース映像を見るたび、愚かな指導者に対し怒りを覚えるとともに、むなしささえ感じます。

そしてこの侵攻により、エネルギー価格の高騰、小麦など穀物価格の上昇など、多くの影響が出ております。国内においても、電力、水道料金など大幅な値上げにはじまり、日用品や食料品その他ほとんどの商品が値上げされ日々の暮らしを圧迫しようとしております。

またアジア周辺でも北朝鮮による度重なる弾道ミサイルの発射、中国による日本の領海への侵入、それに関連した台湾有事の問題など、不安材料が多くあります。

ご遺族の高齢化が進み、戦争を知らない世代が九割を超え、その記憶は風化の一途をたどっております。

我々崇敬者は、護國神社の各種行事、英霊

顕彰等を通じて、平和の有難さを若い世代に語り継いでゆかねばならないと思っております。

今後とも、崇敬者の皆様にはより一層のご協力を賜りますようお願いいたします。

## 祈念史料室 みゆきだより (六)

### 傘寿になって思うこと

松山市遺族会副会長

小野区遺族会会長

宮内 剛

私の父は海軍少尉でありました。祖父より「昭和二十年四月二十四日フィリピンマニラ付近のクラーク陣地の激戦地にて、軍艦を降り敵上陸軍と交戦中戦死したと国より報告を受けたと、聞かされました。私は昭和十九年十月二十六日生まれなので、もちろんその当時の家の様子を知る由もありません。父は、私が生まれて一週間後に帰宅することができ、剛と命名し、次の日には軍艦のいる佐世保へ後も振り返らず帰ったそうです。迫っていたアメリカ軍との戦がどれほどのものか覚悟していたと想像ができません。子どもの頃、戦争遺児として県や市が海水浴や靖國神社参拝に連れて行ってくれた思い出はありますが、自分の生活がいつも精一杯で、遺族会の活動を意識したことはありませんでした。

もちろん校区での慰霊祭はありましたが、祖父が家族代表で協力していたのだと思います。その後、祖父母が亡くなり私が小野遺族会の会員ではありましたが、大した協力もしておりませんでした。五年前に前会長の桑原英信さんより「年が一番若いからお前やれ」と言われ、七十三歳と他の役員さんより少し若いですが、お引き受けした次第です。

平成二十九年より小野遺族会の責任者として引き継いだ折は会員が八十三名でしたが、三年目に新型コロナウイルス感染症が拡大し、会議や大会が中止されたり縮小されたりと、会員と連絡を取るのが難しくなりました。今は、高齢による脱会や後継者不足で現在六十七名となっております。今年の総会も心配ですが、多少の減少は仕方ないと覚悟もしています。

小野遺族会に関わってまだ年数が浅く、これからどのようにしていくかを思うと、現在の情勢から今後、急激に人数の減少と活動量の減少が運営に重くのしかかってきます。

前回執筆の須賀一成氏の提案以上のことはないと思います。成功させるには相当な努力が必要だと思えます。

現在コロナ以外にも、ロシアのウクライナ侵攻・世界的な物価上昇・トルコ地震等、天災・人災と大変な時代の真っ只中で、日本も悪戦苦闘しています。しかし、コロナも少しずつ減少に向かい、国民の気持ちも明るさを取り戻しつつあるように思います。スポーツ

においては、ファンのみならず国民全体が大興奮したワールドカップサッカー・WBC野球で、私もスカットした気分を取り戻しました。その上、日本のファンの清掃活動（外国の記者の報道）を見ると、敵・味方なく応援するファンの細かい心遣いに日本人のやさしさや細かい心遣いを改めて誇りに思うとともに、これからも日本人はいつまでもこの文化を全世界に発信していくと確信しました。

これからの小野遺族会の活動は、戦没者の忠霊塔の参拝行事と維持管理です。昭和三十五年三月に自衛隊の補助により建立されたもので、塔の中には二百八十余の柱が納められています。地元ではハリマ塚忠霊塔と呼ばれ、秋のお彼岸には地元の人々、遺族会等が戦没者慰霊祭として参拝しており、いつまでも続けなければと思うとともに、今後とも微力ではありますが協力してまいりたいと思いますので、ご指導をお願いいたします。

ここ何年かは護國神社への参拝が増え、心の汚れが清められ、目標である八十歳まで仕事、ゴルフともに現役が達成できそうです。そのうち父に、家族やいつまでも戦争の絶えない世界のことを報告に行きます。





## 第六十九回新穀献納慰霊祭

愛媛縣護國神社

令和四年度(第六十九回)新穀献納慰霊祭は一月十一日(水)午前十一時より、護國神社で厳かに執り行われた。

愛媛県郷友会永井会長が祭主となり斎行された。当日は天候にも恵まれ、コロナ禍のなか、ご来賓、団体代表、会員代表四十五名で斎行した。

県下会員、県民の御協力により拠出されたお初穂料・新穀を奉納し、英霊を御慰めました。御尽力戴いた皆様に感謝申し上げます。

## 祭文

本日、愛媛縣護國神社の大前において、ご来賓及び郷友会会員多数ご参列のもと、第六十九回新穀献納慰霊祭が、厳かに執り行われるにあたり郷友会を代表して謹んで祭文を奏上致します。

この献穀運動は、幾多の事変、特に大東亜戦争において、戦禍に倒れ、あるいは、遠い異郷の地に亡くなられた郷土の英霊の皆様方に、収穫された新米を献じることから日本郷友連盟の発足する三年前の昭和二十八年に始まりました。

今日の豊かな生活を享受できるのは尊い英霊の犠牲の上であり、感謝の誠を捧げる慰霊顕彰の伝統行事として会員の皆様の協力を得

ながら続けて参りましたが、今では定着されております。今後も永久不滅の愛のある愛媛県の誇れる伝統行事として継続実施する決意を新たにしております。

しかし戦後七十七年も過ぎ、会員の高齢化による活動の衰退、減少が著しく、戦争を知らない世代の国民が八割以上を占めて慰霊顕彰の理解のない今日、新型コロナウイルス感染症が世界中に蔓延し、事業の制約を受け対策に我々も苦慮致しております。わが国は他国に比べやや少数の感染に止まっています。国内の見通しが立ちません。国内外の難問に対応するためどのような対策を講じてゆくべきかと苦慮する時代を迎えております。

私も日本郷友連盟の理念でもある、自分の国は自分で守るという国防意識の高揚、英霊・殉職自衛官の慰霊顕彰、栄光ある歴史及び伝統文化を継承するという、三点の具現実行を通じて組織の強い活性化と維持に努めながら、先輩としてこの事業を語り継ぎ、継承・存続しなければならぬと痛感しております。今後におきましても私どもは御祭神四萬九千七百二十八柱の方々のご加護を戴きながらこの事業を続け、百四十万県民のやさしさとパワーを結集し、豊かで住みやすい郷土づくりにより専念努力する所存であります。

また自衛隊に関しては、最近の近隣諸国の動静は予断ゆるしがたき不穏な行動が多く憂慮される中、益々のご奮闘を期待すると共に、我々は限りなく最大限の支援を続けて参

ります。

終わりになりましたが、在天の英霊どうか、ご遺族の皆様をはじめ県民全てにご加護を賜り、安らかにお鎮まり下さいますよう祈念し祭文と致します。

令和五年一月十一日

愛媛県郷友会会長 永井之保

式典終了後、宮司謝辞・献穀集荷実績報告を行った。

祭典後に神門前にて記念撮影を行い、直会は中止し、弁当を戴いて散会した。会員皆様のご協力に感謝申し上げます。



『戦友団体等による慰霊祭』

令和四年

十月十日 六日 公益社団法人愛媛県隊友会

十一月一日 西予市野村町貝吹

令和五年

三月一日 西条市河北

〈永代祭祀料奉納者御芳名〉

令和五年 二月

一、拾万円也 高松市国分寺町 木原 大志様

〔奉納者並びに寄贈図書〕

一、〔倫風〕

松山市緑町

一般社団法人実践倫理宏正会

松山支部 森川いづみ様

令和四年(十月)秋季慰霊大祭奉仕者

(敬称略)

献茶奉仕者(茶道裏千家淡交会松山支部)

淡交会松山支部

浅井宗直

淡交会松山支部

篠浦宗真

献花奉仕者(愛媛県華道会)

桂月 流松山市朝日ヶ丘

岩本清美

奉納生花奉仕者

古流松藤会 松山市永木町

森 恵子



学問の木楷の木と四川蘭について

愛媛万葉苑保存会

常任理事 藤原 茂

万葉苑には万葉植物のほか、英霊ゆかりの郷土植物と苑創設の竹葉先生(元県師友会長)ゆかりの植物もあります。それが楷(かい)の木と四川蘭(山路蘭)です。

まず楷(かい)の木ですが、これは中国原産で我が国では珍しい木です。孔子に因んで通称学問の木と呼ばれています。また中国では科挙(隋から清の時代の官僚登用試験)の合格祈願木として有名でした。国内では京都府綾部市の生身天満宮や孔子ゆかりの三聖堂(東京湯島の聖堂・岡山の閉谷学校・佐賀の多久聖堂)の木がやはり入学祈願木として有名です。苑の楷の木は万葉苑保存会常任理事で愛媛県師友会会長であった近藤美佐子さんが、福岡市の山本悟さんを通じて平成十一年十二月入手されました。

楷の木は和名で孔子木と牧野富太郎さんが命名されたようですが、牧野新日本植物図鑑には掲載されていません。木は漆樹科の落葉喬木です。雌雄異株で樹齢二十年位になって結実するまで雌雄の判別が難しいようです。したがって苑の木もまだ雌雄不明です。楷の木は中国では模範の木とされていますが、我

が国でも楷は楷書の語源で意味は「強くて真つ直ぐ・手本」です。

実は去る一月十一日の読売新聞の編集手帳に「かつての中国では、母親が使う鏡の裏に『五子登科』という四文字がよく鑄込んであったと言う。中国史の碩学、宮崎一定さんはその理由について、『子を五人産んでそれが揃って科挙に成功してほしいと言う母親の切なる念願』と著書(科挙・中央新書)に紹介している。科挙は六世紀後半の隋の時代に始まった官吏登用試験で、合格者は後に「進士」と呼ばれるようになった。世襲的な貴族政治をやめ、試験で人材を登用する考え方は当時としては画期的だったとされるが、「五十少進士」(五十歳で進子になるのは若い方)と言われるほどの難関だったという。：中略：受験勉強の苦労や、試験に臨む時の緊張感、は昔も今も変わるまい。そして、わが子の健闘を祈り、支えてきた親の気持ちも：後略：」と、前述の神社や学校などでは「合格祈願や学業成績の向上」などを願って参拝された折には「是非この『楷の木』の葉を一枚お持ちお帰り頂ければ、更なる御神徳が授かれるものと存じます」と案内されています。

この秋受験前には是非護國神社へ御祈願に参られて学問の木の葉を一枚頂いて下さい。楷の木は苑内広場の西にあります。説明の立て札が目当てです。その頃の楷の木の紅葉は多彩で見事です。神社では別に楷の葉をラミネートしてお守りすることも検討されてい



ます。なお、万葉苑の小倉さんの手配で、小径を挟んで更に幼木が補植されました。

次に「四川蘭」は通称「山路蘭」とも呼ばれていますが、学名は「シンピジュウム・ヤマジイ」で、八木繁一先生の命名です。

この蘭は愛媛県特有の蘭で、由来は第十三代愛媛県知事井澤多喜男氏が、台湾総督時代中国を旅行した際四川省で入手され、当時滋賀県師範学校長であった山路一遊氏に贈られたものです。その後大正二年山路先生は愛媛師範学校の校長に赴任されました。山路校長は愛媛教育の基礎を創られた名校長として「師道賛仰」の碑(市内教育会館前)にその業績が顕彰されています。その間山路先生の指示で愛弟子の八木先生によって管理されてきました。山路先生亡き後は八木先生によって愛育され、一部は旧藩主久松家でも栽培されてきました。また山路先生の薫陶を受けた竹葉先生も愛育された蘭です。しかし最近には派手なシンピジュウムに押されて殆ど姿を見なくなりました。

この春私宅にあった四川蘭の大株を十数鉢に分割して苑の関係者に分配しました。その内三鉢を万葉苑で管理しています。今回分株した四川蘭は、久松家↓石原家(元久松家御諮問員)↓藤原と、八木家↓篠崎家(当時県教育長)↓藤原と続いた由緒ある蘭です。言わば山路先生直系の蘭で、縁あって約七十年が私が愛育してきました。この間時折近藤家に届け、「ひ」誌で紹介されました。



愛媛万葉苑にある楷の木

八木先生によると「この蘭は春蘭の仲間の大形物で、濃緑の葉が四方にゆっくり垂れ下がっていて、年末に出る花の二十輪もつけた花軸もこの葉と同様湾曲していて極めて上品に見えます。その花軸や花梗も花が濃紫色をしていきます。花の内部も薄い黄色の小斑点のある上品な花です。それに、この類の洋蘭には珍しく香気の高いのが何より魅力です」と残されています。なお昭和二十五年昭和天皇が御来県の折、道後温泉又神殿で天覧に供しその蘭を献上されたそうです。

また、山路先生が愛育中は毎年春の植え替えは殆ど八木先生が行われました。用土の砂は石手川の荒砂を用い、その際は砂も蘭の株もきれいに洗浄していました。その際除去する古いバルブは、別に水苔などで培養すれば、新芽が出てきます。

この作業は実際には中々困難な作業で、元県医師会会長だった故今川七郎先生は珍しく四川蘭の大鉢を十数鉢愛育されていました。が、植え替え時期には専門の業者に任せておられました。



正式参拜

☆令和四年十月二十五日

愛南町遺族会

会長 宮谷敏彦 様

計二十九名



☆令和四年十月二十八日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷勝嗣 様

計二十名

☆令和四年十一月二日

特攻隊音楽劇「流れる雲よ」

愛媛実行委員会

奈美木 映里 様

欄所 友子 様

計十名



☆令和四年十二月一日

松山市遺族会役員会

会長 西村利明 様

計三十五名

☆令和四年十二月六日

久万高原町遺族会

会長 菅 和繁 様

計二十名

☆令和五年一月二十五日

愛媛県神社庁松山支部

支部長 野口 光比古 様

計十二名

☆令和五年一月二十七日

愛媛県神道青年会臨時総会

会長 田窪 大朗 様

計十名



☆令和五年二月十日

建国記念の日 四国中央大会

講師

ウクライナ人

ナザレンコ・アンドリー 様

計二名



☆令和五年三月二日

松山市遺族会役員会

会長 西村利明 様

計四十名

☆令和五年三月二十四日

愛媛県遺族会理事会

会長 関谷勝嗣 様

計二十四名



## 愛媛縣護國神社英靈顕彰会 入会と継続のご案内

平成26年11月の設立以来、ご理解ご協力を賜り感謝申し上げます。  
今後も英靈のご遺徳を顕彰し後世に伝えてゆくために、愛媛縣護國  
神社英靈顕彰会へのご入会と継続のご協力をお願い申し上げます。  
お問い合わせは、下記迄お願い致します。

愛媛縣護國神社 英靈顕彰会事務局 TEL (089) 925-2353

### 英靈顕彰会会員の特典

各特典	正会員	賛助会員	特別会員	備 考
会費(年額)	3,000円以上	10,000円以上	100,000円以上	
会員対象	個人	個人・団体	個人・団体	
神 札	御 守	紙 札	木 札(小)	年1回発送
社 報	年2回発送	年2回発送	年2回発送	
春秋大祭案内	×	×	○	一般来賓案内
顕彰石彫	×	×	○	

御祈禱(お祓い)の

御案内

当社では各種祈願を随時お受けしております。  
時間等は社務所へお問い合わせ下さい。

初 七 厄 交 家 合 社 新  
宮 五 除 通 内 格 運 年  
三 三 け 全 全 祈 隆 特  
詣 詣 け 全 全 願 昌 別  
詣 詣 け 全 全 願 昌 祈  
詣 詣 け 全 全 願 昌 祈